

令和3年度 第1回飛騨市総合政策審議会 議事録

【日 時】 令和3年8月4日（水） 13時00分～16時30分

【場 所】 飛騨市役所 西庁舎3階 大会議室

【出席委員】 18名中15名

【執行部等】 都竹市長 湯之下副市長 沖畑教育長 森会計管理者 泉原総務部長
藤井市民福祉部長 横山環境水道部長 野村農林部長 畑上商工観光部長
森基盤整備部長 中畑消防長 佐藤病院管理室長 野村教育委員会事務局長
岡田議会事務局長 田ノ下宮川振興事務所長 森田神岡振興事務所長 上畑財政課長
(17名)

【事務局】 谷尻企画部長 三井総合政策課長 土田係長 井口主査 上手主任（5名）

【傍聴者】 14名（うち吉城高校教員1名、生徒11名）

【会次第】

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 市長挨拶
4. 会長挨拶
5. 協議事項
 - ①主要施策のこれまでの成果について …… 資料①
 - ②地方創生関連交付金事業の効果検証について …… 資料②
 - ③飛騨市過疎地域持続的発展計画（案）について …… 資料③
 - ④新型コロナウイルス感染症に関する対応状況について …… 資料④
 - ⑤令和4年度の政策方針について …… 資料⑤
 - ⑥自由討議
6. その他
 - 今後のスケジュール …… 資料⑥
7. 閉会

【議事内容】

1. 開会【谷尻企画部長】

令和3年度第1回飛騨市総合政策審議会を開催する。

本日は3名がご都合により欠席であるが、委員18名中過半数の出席により、飛騨市総合政策審議会設置条例第6条の規定により定足数に達していることを報告する。

今回は吉城高校生徒11名が市役所インターンシップの一環で傍聴されており、後程ご意見をいただく予定である。

2. 委嘱状交付

今回、委員の交代があったのでご紹介する。7名が今回新たに交代された。時間の都合上机上配布をもって交付とさせていただきます。

3. 市長挨拶【都竹市長】

今年度第1回目の総合政策審議会で、本日は吉城高校の生徒さんにも傍聴いただいている。

この審議会は年4回開催し、市民の各分野を代表される方にお集まりいただき、各分野のことだけではなく、それを越えた自由な意見をいただく中で、皆さんの声を直接政策に反映させることを目的としている。

今このタイミングで開催する審議会というのは、市では来年度の予算編成方針を議論しており、これから夏の間各部で色んな政策を練るというタイミングであることから、ここで色んな問題意識を上げていただくと、そのまま、来年度当初予算の政策として検討することが可能になるということで、非常に自由度の高い回である。秋に開催する回では、各部から具体の案を出し練っている段階であり、そこに反映させるとこういうことになる。さらに年末には3回目ということで、この時点ではもう予算査定が進んでおり最後締めの上の仕上りの時期になることから、取りこぼしたものがないかということを確認する。3月には、皆さんに最終のご報告をして、更なるアドバイスをいただくという予定になっている。

いつも高木会長が仰られるが、このようになり突っ込んだ形で、毎年の予算編成について複数回意見を聞く会を設けているという自治体はあまり無く、その意味では皆さんそれぞれのお考えがそのまま政策に反映できるという非常に貴重な機会だと位置付けている。本日も分野を代表された意見だけではなく、生活者の立場として感じられていることを上げていただき大いに議論させていただきたい。現在、デルタ株による第5波ということで大変な感染数になっているが、丁寧に全国のデータを見るとワクチンを打った層の感染者数が明らかに減っている。一昨日、大阪大学名誉教授でワクチンの権威であられる宮坂昌之先生の講演を拝聴する機会があり色々ご質問させていただいたが、ワクチンを2回接種し2週間経過するとデルタ株にも相当有効に機能すること、また、ワクチンを接種出来ない方もおられることから、検査と組み合わせることで秋以降平常に戻していけるのではと考えるが、国民全体の7割以上が、2回接種し2週間経過することが一つの目安になるとのことであった。

飛騨市の場合は、10月上旬には希望者全員に2回接種が終わるペースであり、完全に緩めるわけではないが、秋頃には市内行事などは割と実施しやすくなってくると考えている。

今回の第5波では、ワクチンを接種していない層にウイルスが攻撃し、そこから大変な広がりを見せている。ワクチンを接種された方でも家などで濃厚接触されると発症することがありうることから、もうしばらくは我慢が必要であると思うが、来年度には様相が変わると思っており、そうしたことを前提に来年度に向けての施策議論をしていきたいと考えている。

4. 会長挨拶【会長】

私は、これまで岐阜大学工学部の社会基盤工学科というハード的なまちづくりをメインにやっていたが、この4月に社会システム学環という経営学の学士号が取れる教育組織を作り、そこに所属が変わった。学環とは、文部科学省が法律改正して、複数の学部と連携をしながら総合的に様々なことを学

ぶ仕組みで、日本で第1号に手を挙げ、この4月からスタートしている。行政やビジネス或いは観光など幅広く経営というものをとらえるために、「社会システム」という名前になっており、その中での人材育成を新たにスタートするという事で、私自身もその立ち上げに努力しようやく実現したところで、気持ちを新たにスタートしているところ。

その中で、飛騨市では宮川地区の「種蔵」という地域で関係人口を活用した「ふるさと種蔵村」の運営に副村長として携わっており、昨年度からミョウガ畑でオーナー制や体験プログラムを実施し、耕作放棄地を市民はもちろん市外の方々にも耕作をやっていただくことで、集落の風景或いは景観の保持をやっている。いよいよ今週土日に収穫予定で、学生たちと一緒に来る予定だが、集落の方々も単に耕作放棄地をボランティアで耕し収穫して楽しむということに限らず、美味しくて大きい「宮川ミョウガ」を三寺めぐり朝市に出荷しよう準備をしている。こうした形でまちづくりを継続していくためには、収益という部分も考えていく必要があるということ、私自身も学生たちと一緒に学んでいる最中である。

本日、吉城高校の生徒11名が市役所のインターシップということで参加されているが、私自身も3年前、市長に29日間インターシップをしており、その際に市役所の仕事或いはマネジメントなど多く学んできた。吉城高校はYCKプログラムを長年やっておられご活躍であるということは飛騨市にいないものでも知っており、短い時間ではあるがしっかりと学んでいただいて、これからの皆様の活動に生かしていただければと思う。

5. 協議事項

司会【会長】

【会長】 協議事項①主要施策のこれまでの成果について、事務局の説明を求める。

【土田係長】 協議事項①について説明。(資料①)

【会長】 協議事項①について、ご意見ご質問をいただきたい。

【H委員】 財政について法人市民税が令和1年から令和2年にかけて若干増えているが、法人の数が増えたのか。

【上畑課長】 法人数が増えたのではなく、一部の法人の投資による償却資産税が増えたもの。

【会長】 協議事項②地方創生関連交付金事業の効果検証について、事務局の説明を求める。

【土田係長】 協議事項②について説明。(資料②)

【会長】 協議事項②について、ご意見ご質問をいただきたい。

－ 意見なし －

【会長】 協議事項③飛騨市過疎地域持続的発展計画(案)について、事務局の説明を求める。

【土田係長】 協議事項③について説明。(資料③)

- 【会長】 協議事項③について、ご意見ご質問をいただきたい。
- 【会長】 どこかの政策を抜き出して作られたのではなく、市が行っている全ての事業を再編したという考えか。
- 【土田係長】 国の計画の作成方針に従い、総合政策指針を再編したということ。
- 【会長】 協議事項④新型コロナウイルス感染症に関する対応状況について、事務局の説明を求め。
- 【谷尻部長】 協議事項④について説明。(資料④)
- 【会長】 協議事項④について、ご意見ご質問をいただきたい。
- 【N委員】 飛騨市は他の自治体と比較し様々な事業を実施され、夏期期間はPCR検査を無料で受けられる体制を整えているが、飛騨市に来てから検査ということで、誹謗中傷に対する取り組みの再徹底をしていただきたい。
まるごと大売り出しについてだが、あるお店でさるぼぼコインで支払いをしようとしても出来ないということがあったと聞いた。市のシステムではないのでここで申し上げるべきではないと思うが、コメントさせていただく。
- 【都竹市長】 誹謗中傷について、昨年同様、第5波の状況下ではやはり帰ってきた来ていないの話になる。再度、やさしいまちづくり宣言のポスターを増刷し、あわせてお盆前に市からメッセージを出そうと思っている。
帰ってくる方々はそれぞれの事情・理由があり、一概に県外・市外の往来は駄目ということではなく、相手の立場に立って何か理由があると思って考える。同時に、自分の感染対策をしっかりやる。例えば隣の家子どもが帰ってきたとしても、自分が長い間マスク無しで話さない限り感染しない。要するに自分の行動の問題であって、人の問題ではないということを今までメッセージでも申し上げており、金曜日に開催予定の県会議を踏まえメッセージを出す際に、もう一度よく徹底したい。
それを今度は気持ちだけではなく、実態的にフォローする取り組みが検査体制の強化。帰ってきても検査で陰性を確認できているということが言えるよう、無料にして活用を拡大したところ。
さるぼぼコインの話は、恐らくシステム上の問題で、市ではそうした話は無かったが、飛騨信用組合とよく話していこうと思う。
- 【会長】 飛騨市のコロナ対策は、全国でも類がないほど様々な取り組みをされている。資料にあるように毎週会議を重ねられ、「定点観測」という丁寧な聞き取りに基づいて動いていることが素晴らしい。また、財政面でも国の支援金を上手く活用されているという点も感心したところ。
- 【会長】 協議事項⑤令和4年度の政策方針について、事務局の説明を求め。

【都竹市長】 今年度の予算は、新型コロナで得た経験知見を未来に生かすということをテーマに編成した。先ほど冒頭でも申し上げたが、来年度はどういう年になるかを考えた上で予算編成方針を決めなければいけない。

ワクチン接種は恐らく年末あたりには国内でも相当進むと思われ、感染者は出るが重症度含めかなり収束・低減傾向になる可能性が高いと見ている。また、医療・介護従事者のワクチン接種が来春で1年になることから、3回目のブースター接種は、恐らくその頃に行われると見ており、ブースター接種は1回で概ね1年効くと専門家の意見では言われている。このことから来春あたりくらいからは、国内経済、市民生活はかなり平常化し、来年度の今頃は随分様相が違っていると予想される。

経済をマクロで見ると、家計所得は様々な統計を見ても大きく下がっておらず、先般、昨年度の国税の統計が出されたが、法人税も過去最高の数字となっている。現実には落ち込みが厳しい状況にあるのはサービス業、小売業辺りで、製造業などは飛騨市のデータにあったようにむしろ好調であるところも多い。

この夏はお金を使わない人が多いという報道を最近聞くが、貯蓄がかなり増えていると予想される。しかも製造業は、原材料高や半導体の価格の上昇などあるが、大きな落ち込みも考えにくいとなると、来年度、どこかのタイミングで一気に物事が動き出す年というように位置付けるべきだと考えている。

飛騨市は、地方交付税に頼る部分が多く、今年度も予算通りくらいの見通しであり、割と安定した構造にある。また、ふるさと納税を昨年度並みに確保できるかどうかだが、巣ごもり消費の傾向から考えると、安定的に推移すると思っている。

こうしたことを踏まえ、来年度の政策を検討していくことになるが、資料に記載のとおり、コロナ禍で抑制されていたモノを大きく動かし、「アフターコロナにおける積極的な経済復活策と、SDGsを意識した持続可能なまちづくり」というテーマを掲げ、政策の検討に入ったところ。

資料の一つ目の項目の「積極的な地域振興」では、抑制されていた観光産業のリスタートを行うとともに、この2年間、開催できずに止まっている地域振興事業をもう一度再開させる。しかし、完全にコロナから脱却することは難しいことから、市が整備したPCR検査の他に、現在もう一つ検討を進めており、そうした検査体制を整えた上で、検査を必ずセットに経済を回すことを率先して取り組んでいきたい。コロナが完全に収束してなくても、ワクチンと検査という二本立てでベースを作り、観光産業、地域振興事業の出来なかった部分を再スタートさせることが来年度の一つのテーマかと考えている。

二つ目は「20年後・30年後の未来に遺す地域資源の保全」。これは、SDGsを意識した持続可能なまちづくりに繋がるが、これまでの市政で十分できてない分野が依然としてあり、それが一般的に言うSDGsと言われるような分野。脱炭素、自然環境、或いは町並み景観、こうしたところは、これまでの市政の中では、必ずしも力を入れて取り組んできた分野ではない。

例えば、自然環境では深洞湿原や奥飛騨流葉県立自然公園、宮川種蔵の上部からニコイ、天蓋山、白木峰、北ノ俣などこれまで手を付けていないことから、何をどうしたらいいのかという知見自体がたまっておらず、少し動き始めていきたい。これは市民の誇りづくりに繋がると同時に、自然を大事にするという市の使命を果たしていくということにもなる。次に脱炭素、そしてエネルギー施策もこれまで体系立てて取り組んできているというより、むしろ小水力発電の誘致促進ということをやってきた。

それは、固定資産税の税収確保という面が強く、先ほど紹介したデータでも各土地の価格が下がり減っていく一方、小水力発電の設備投資を積極的に推奨したことにより、償却資産税の固定資産税が増えておりカバーできているということである。

これまでそうした側面にとどまっていたが、今度は日本全体の再生可能エネルギーの推進に市としてどう貢献していくのかを考えたい。市内でもまだ発電はできるが送電部分が難しいという状況であるが、例えば、電気から水素を生成し次の産業につなげる可能性もあると考えており、例えばそうした問題意識を、この中に反映させたい。また、エネルギー政策で市としてできる大きなテーマは省エネ。住宅省エネ投資に対する支援をやっているが、もう一度市民レベルで省エネについて、しっかり考えられるような取り組みをやりたい。

景観については、この分野もほぼ今まで手つかずである。特に飛騨古川の町中の景観。これまでは市民の意識に任せていたという部分が多く、例えば将来 100 年 200 年後に残す景観にしていくために、規制をかけるということではなく、どのようにこの町を意識していただくかということに取り組む必要があると思っており、これまでも東大の西村先生などご指導いただいている先生もおられることから、今一度街並み景観の保全伝承を考えていきたい。

最後に、これまでの取り組みを更に強化する分野が貧困対策。子供の貧困対策として平成 29 年度から取り組みをスタートしているが、今年 8 月にアンケートを取り直し、子供の貧困という部分をもう一度よく練り直してみたい。単身高齢者、或いは様々な障がいのある方のご家庭等々、大人の家庭でも、非常に生活が厳しい家庭がある。この分野は相談窓口等を設けアプローチできる体制のベースが出来てきたことから、今一度具体的な施策にするため検証をしっかりやってみたいということ。

次に行政におけるデジタルトランスフォーメーション。市役所の仕事について大規模な IT 投資をするということではなく、今非常に普及している既存のツール・アプリを使う中で、できるだけ「行かなくてもいい市役所」、つまり窓口のことはほぼネットで終わるということができないか。また、表裏一体としてデジタル弱者の支援も検討する必要がある。今回もワクチン接種予約をした時に顕著に出たが、70 歳以上と以下とではネット予約の割合が全く違い、年齢が下がれば下がるほどほぼネット予約になり、昨日始めた 40 歳以上はほぼネットだけで完結した。こうした経験の中でどの年齢層が弱いのかは見えてきており、そこに対する支援というものを考える必要があると思っている。

ビジネス創出の誘導では、起業という非常に平易な言い方だが、ここ近年の中でも飛騨市の中で新たな動きが間違いなく起こっており、少なくとも5、6年前とは明らかに違う。全国に向けた商売をすることが市内で実際行われるようになってきており、こうしたクリエイティブ産業も含め、直売所やモノづくりなど新商品の開発やマーケットの開拓も力を入れていきたい。

最後に広報の強化だが、ここも既存のアプリや音声メディアなど、現在使用しているユーチューブを含め、もっと様々なツールを増やし市政情報を様々な形でお届けできるようやっていきたい。

現在このような問題意識を持っており、それぞれの分野でどのようなことができるのか議論を始めるところである。秋の9月議会が終わった後からだが市長との政策協議をやっており、年間トータルで70から80時間ほど議論する。その中に、本日いただいた問題意識を盛り込みながら検討していくということである。

【会長】 協議事項⑤について、ご意見ご質問をいただきたい。

【J委員】 再生可能エネルギーの推進について、バイオマス発電は飛騨市はしないということをお願いしたい。今年3月の県議会で知事がバイオマス発電を推進すると言われたところ、様々な商社から材を出してほしいと問合せがあった。実際、県内どこを探してもバイオマス発電に必要な材を採る人的能力がない。

貧困対策では、今年発表された令和4年度骨太方針によると高齢者に厳しい政策が出てくると感じた。市としてしっかりフォローしていただきたい。

【都竹市長】 木質バイオマスは、かねてからJ委員にもご指導いただき、とても材が出せる状況ではなく小規模なもので成り立つような業界ではないというふうに承知している。また、飛騨市は送電網が非常に脆弱であることから、発電しても送電ができず、どこからアプローチしてみても木質バイオマス発電ということに関しては難しいという認識を持っている。ご安心を賜りたい。先ほど申し上げたように、やはり水素を一つの切り口として考えていきたいというのが基本的なスタンス。

貧困対策については、特に高齢者に対し多重債務支援など様々なアプローチはしているものの、これまで解を用いず本当に行き着いていない状況。もう1回しっかり地方自治体としてカバーしていけるように考えたい。

【B委員】 小水力発電については、河合でも業者の方から、今後3年間で実証実験等をやりたいとのことで河川利用の許可をいただきたいという話が来た。河川を利用して一儲け企んでいるように思われる。

市としてもそういった話が来た際、対応できる手段など考えているのか伺いたい。

【都竹市長】 開発の案件があるときは概ね市に連絡があり把握していると思うが、必ずしも全て相談があるわけではない。個別に発電可能な場所を調査されるなどわからないことも実

際にはあるが、大抵の場合はパイプを市道や林道に通すことが必要なケースが多く、市に相談がないことはまず考えられないことから、その中で、様々な判断をしていくことになろうかと思う。

これまでも電力会社系と地元企業が組んでるようなケースが大半であり、外資等が入ってくるケースはあまり認識していないが、また相談があれば対応していきたい。

【会長】 ここで、吉城高校生徒2名からご意見をいただく。

【高校生A】 田舎暮らしに憧れる人をターゲットに飛騨に呼び込む政策を。古川に田んぼが多くあるが作業者の多くが高齢者であり、友人に聞いても祖父母はやっているが自分はやるつもりが無いと言ってる人が多く、高齢者が辞めたら田んぼが使えなくなってしまうので、田舎暮らしをしたい人を呼び込むことにより、使われなくなった田んぼを再利用したり景観の保全につながり、ひいては人口減少対策にも繋がる。こうしたことについて市長はどう考えているか教えてほしい

【高校生B】 飛騨市にも大型ショッピングモールや、山がたくさんある飛騨市だからこそのアスレチック公園など、友人や家族で楽しめる場所があるとよいと思う。

【会長】 市長からコメントをいただく。

【都竹市長】 高校生Aのご質問だが、実は昨年、飛騨市の移住者数は非常に好調で過去最高だった。市の支援策を利用した人というのがカウントの定義であるが、全体的にコロナの影響もあってか都市部からの移住のトレンドは出てきておりチャンスだと思っている。では、どういう時に人が移住するののだが、調べてみると「中部のこの辺り」「岐阜や長野」など漠然とした希望を持たれ、色々調べ飛騨地域に行き着く。その中には、高山も下呂も飛騨も白川村もあるが、まずは希望に叶う物件を探して決め、そこで仕事を探して移住するというケースが非常に多い。

よって、田舎暮らしに憧れる方をターゲットとして呼び込むためには、このような仕組みや流れを踏まえ、多くの住宅情報をしっかり出せるようにする対策が必要になった。また、サポート体制についてだが、相談があった際に付きっきりで住宅等を案内する移住コンシェルジュという方を3名配置しており、その方々の支援によるところが大きい。

そこで、耕作放棄地に移住者が携わってくれたら耕作放棄地対策になるのではないかとこのことで、これは確かにそうだと思う。

これについては二つあり、一つは住宅に付随する小農地を活用してもらう方法と、もう一つは、担い手農家に就職する形で入っていただくことも流れではないかと考えている。このような実際の流れや行動を分析し対策を打つと、中林さんのお話にあったような、移住・田舎暮らしに憧れる人を呼び込むことに繋がると思う。

高校生Bのお話で大型の体験施設やショッピングセンターということだが、こうした

ものを建設する際には、商圈人口や資金、テナント料など、規模などから様々計算されるが、実際は採算が取れず難しい。しかし、飛騨市の身の丈にあった施設というのは、造れないことはない。

確かに家族で楽しめる場所はなく、もっと言うと子ども達が遊べる場所がない。市でも今ある建物を使って子ども達が遊べる場所をつくれないうことを勉強したり話し合ったりしているが、今まで全く需要がない部分ではあり、小さいところでもある程度採算がとれるということもあるかと思う。

いずれにしても、みんなが喜び、しかも、この地域の中でも成り立っていく事業をやりたいという人たちがいた時に応援するのが市の立場。そうした話があればぜひ応援しながらみんなが喜んでもらえるようにしたいと思う。

～ 休憩 ～

【会長】 会議を再開し、ここで委員の皆様から市に取り組んでほしい分野、事業、課題など、普段の生活でお困りのことも含め、会の代表のお立場でも一個人としても結構ですので、お一人ずつご意見を頂戴したい。

【A委員】 これまで地区で相談を受けた件について2点お話ししたい。

1点目は、以前は商売をされてみえた空き家が近隣にあり、民泊が出来る施設に変えたいということでお話を受け、空き家にしておくよりはいいのではないかと返事をしたことがある。この空き家もそうだが、古川の町中は裏が壁一つで繋がっており、雪を運び出すために壁がなく、行き来できるようになっているが、両隣の方は建築業者が工事に来た時に初めて工事のことを知られたとのことで、話を聞いておらず誰が許可したのかと相談を受け、改装事業者に事前に近隣への説明をされたかと伺ったところ、一切話をされておらず商売だと割り切ってみえた。結局、了解いただき改修を止められて現在は空き家になっているが、こうした際にどのように対応したらいいのか自分自身もわからず本当に困った。

もう一点の相談は多頭飼いについて。猫を多頭飼いされているお宅のご主人が入院され無人になったところがあるが、近所からは未だに苦情が来る。20頭前後もいるようで、近所の方は猫が勝手に入ってくるため夏でも窓を開けることができず、糞の臭いや畑を荒らすなど問題が多い。NPOに相談したところ去勢をすることのことで、専門家に聞いたところ、去勢をすれば3年後には必ず減るとのことだが、3年もこのまま待てない。県議会議員にも相談されたようだが手の打ちようがない。交通事故が起きれば猫の死骸も処分しなければならない。こうした苦情が毎日のように私に寄せられ困っている状況。

【B委員】 今年、河合町稲越の大谷地区で雪崩の危険性があるということで、道路が9時から17時まで一時的に全面通行止めになり、国道471の野口付近でも通行止めになっていた

ことから、河合・宮川地区から一切外に出ることができなかった。野口街道も、はるか上流から雪崩が起きると道路を完全に塞いでしまう状況であり、今年5月、また7月にもあったことから、古川土木事務所にはスノーシェッドの建設等による雪崩対策の要望書を提出した。市からも要望をお願いしたい。

【C委員】 各個人で所有する除雪機について、購入の支援をお願いしたい。宮川町時代には、屋根落雪融雪耐雪に対する補助制度があり、河合町には除雪機を購入助成があった。市では、高齢者等屋根融雪等整備事業補助金があるが、除雪機を購入補助がないので、検討していただきたい。屋根の雪を下したあと、本通りは除雪機で除雪していただけるが、入り組んだところなどは人的では難しい。コロナ後を見据えての対策だが、4年度の政策についてはコロナで疲弊したサービス業、観光業、それらの人に、厚い手当をお願いしたい。

【D委員】 子ども達がラジオ体操する場所の蚊の駆除やポケットパークにハチの巣があってハチ駆除を頼まれた。自治会にこういった単純な依頼があり、そういうことが自治会の役目のようになってしまっている。

【E委員】 最近市外から来られた2名の方から、アパートを探すときに神岡の物件がすぐになくなってしまうことと、単身で入れる公のアパートや、ペットを飼いながら住める家がないといった話があった。要望に合った空き家の情報を市では把握しているものの、なかなか希望者とマッチしておらず、空き家をうまく使ったアパート対策に関してまだ課題が多いと感じている。

飛騨市のホームページについて、見たい資料を探そうと思ったがたどり着けず、ブラウザから直接検索したら、探しているページにすぐにたどり着けたという事が何度もある。目的のページへたどり着きやすくなるような、見やすい使いやすいホームページにお金かけずに工夫できないか。

災害に強いまちづくりに取り組まれているが、神岡は特に急傾斜地や、河川部でレッドゾーンイエローゾーンが非常に多く、そういったところに住んでいる方も多い。避難所に一極集中して避難するという考え方ではなく、垂直避難を交えながら避難を進めるということが主になってきていると感じている。そういったことが市民に浸透していない部分だと思うので、災害に関するPRをしたり、実際の行動計画を決めていく必要があると思っている。

SDGs が今世間的にも知れ渡り始めている。主要施策の資料の中に、SDGs の17個ある目標のシンボルマークを使って表示してあればより見やすくなる感じた。

【F委員】 コロナの関係で心無い言葉を言われるなど辛い思いをした人がいると聞く。引き続きみんなにやさしいまちづくりをしていただきたい。

病児保育について、去年は利用者が大きく減少している。安心して預けられるという意見もあるが、お金の問題や、開始時間が遅く利用しにくいという意見が多かった。

児童クラブもお金の問題や、盆休みは預けられず困っているという意見もあった。年中無休の職場が多くなっており、将来的にはニーズに答えていく必要があると考える。

昨年の大雪で登校時間に歩道の除雪が追い付いておらず道を歩くのが危険だという意見があった。安全に通学できるよう対策していただきたい。

最後に、飛騨市民病院の診療回数を増やしていただけないか。常に耳鼻科などが混雑しているので考えていただきたい。

【G委員】

最近子供たちにどうやなボックスの話をした。まちづくりに興味を持ってきている子供が増えていると感じている。

まちづくり拠点の node では今、子供やまちづくり団体の方の利用が増えてきた。

また、移住希望者や商売の相談も増えてきており、テレワーク施設として活用いただいたケースもあった。1人のスタッフでは回せず、2人で運営しているのが現状。

今後は2階の整備や営業時間の延長を引き続きご検討いただき、相談に乗っていただきたい。

【H委員】

プレミアム商品券の販売について、過去に例がないほど大変好評であった。会員からはこの後またあるのかという声が非常に多いが、個人的には今回限りで辞めたいと考えている。これに慣れてしまう事が問題と考えており、次は違った形での支援を考えていくので、ご支援ご協力をお願いしたい。

さるぼぼコインなどの電子決済や非接触型クレジットカードなど、キャッシュレス化を普及させていくべきだと考える。会議所としても行政と一緒にキャッシュレス化の普及に努めていきたいのでご協力をお願いしたい。

デジタルトランスフォーメーションについて、マイナンバーカードの普及に会議所としても力を入れていきたいと考えているのでご支援ご協力をお願いしたい。

アフターコロナに関して、ハイパーカミオカンデのラッピングトラックのように今のカミオカラボの入館人数を増やすためのPRの方法を考えていきたい。また、ラッピングトラックについて、ドライバーが荷主の方にハイパーカミオカンデについて聞かれ苦労されていると聞く。ドライバーは車の中にパンフレットを置いておき、聞かれたらそのパンフレットを説明しながら置いてきているとのこと。

そしてレールマウンテンバイクの集客が落ちている。ピーク時から比べると、今年は21%ほど。レールマウンテンバイクは全国的にも人気が高いものであり、どんどん進めていきたいと思っているのでご支援ご協力をお願いしたい。

最後に、開通した釜崎・朝浦線について、あの道路は41号線まで繋がる道路であるべきだと思っている。開通までに14年かかったとのことだが、ぜひ41号線まで繋いでいただきたい。

【I委員】

コロナ禍でわかったことが、光と影、強みと弱み。

観光業ではインバウンドを頼りにしたところ、商売の方は、通販をしていないところが苦しい状況となっている。デジタルトランスフォーメーションを国が普及させようとしており、情報弱者はますます困難な状況になっていく。10年後には自分が逆に情報弱者になっている可能性は非常に高く、持続可能なデジタルトランスフォーメーションで情報格差を少なくしていただきたい。

そしてこのコロナでオンライン会議が普及し今まで出会えなかった人に会うことができるようになった。教育の面でも別の地域の子供同士で交流するのもいいのではないかと思う。

観光協会としては、コロナが明けた時に観光誘致合戦が始まると思っており、この飛騨市を世界で一番の魅力を伝えたいと考えている。これに関しても商工、農林、地域振興、観光課、そして観光協会が、連携してやっていきたい。また海外からも来ると思うので食・職の多様化についても進めていただきたい。

【J委員】

6月16日に、国会で重要土地利用規制法が成立した。これは防衛施設や原子力施設周辺などの国家安全保障上重要な区域の土地利用に規制をかけるというもの。戦前には外国人土地法というものがあり、海外資本の日本の土地購入には制限があったが終戦直後に廃案となっている。それ以降、日本の土地を海外資本が購入することは全く自由で野放し状態。近頃は安全保障上問題と考えることが起きている。

例えば長崎の対馬では、韓国省による民宿や土地の買収が盛んで日本か韓国か分からない状態。北海道では、千歳空港の滑走路のすぐ隣となる土地がアマゾンに出品されたり、ニセコなどのリゾート地は海外資本が購入を独り占めしている。中国は農地森林にも手を伸ばしている。このようなことが対馬や北海道に限らず、日本中いたるところで起きている。

そしてこの重要土地利用規制法の制定にあたって、水源となる森林については3年以内に検討を加え重要な措置を講ずるとなっている。森林組合として、森林に対する規制についても一刻も早く盛り込むように、市長会を始め、いろんところで問題提起をしていただきたい。

中国では原木不足で、中国資本が日本の山林取得に本腰を入れてくる可能性があると思っている。北海道では中国資本が買った山がそのままにしてあり何もしていない。このまま放っておくと山林が崩壊してしまう。平成25年の4月に岐阜県水源地域保全条例が施行されている。この地域保全条例約はこういったことを防ぐために成立させたもの。しかしこの条例には海外資本の山林購入を規制する強制力はない。

今できたこの重要土地利用規制法に山林の購入規制を盛り込むということなので、3年と言わず一刻も早く盛り込むようにしていただきたい。そのためにも市長にはいろんところで問題提起をしていただきたい。

【K委員】

4月の始業式の開始を遅らせていただきたい。飛騨市の管理規則では4月6日が入学式となっているが、土日を挟む場合は、入学式や始業式の準備等がかなり大変で土日

に先生たちに来てもらっている状況。最初の3日間は学級経営においても教科経営においても大事な時。ただでさえ働き方改革により先生たちは大変で、オーバーワークと言われている。何とか市の管理規則の変更をお願いしたい。

I C T教育の普及で子供たちがタブレットを使うことは本当に素晴らしい。一方、文科省が生きる力の育成ということで「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」を提唱している。「確かな学力」だけに力を入れていくのではなく、バランスのとれた教育の推進をお願いしたい。

英語教育に関して、今教科専門性と言われている。飛騨市においては、市で英語教育の先生を数名雇っているが、小学校の先生が慣れない英語を教えているのが実態。大変難しいことも承知しているが、英語の専門の先生を置いていただくことをお願いしたい。

令和2年度事業実績の資料について話させていただく。

まず5番の魅力ある地元高校づくりの推進について、飛騨神岡高校、吉城高校ともに本当にいい成果を挙げており、飛騨市の中学生は大変恵まれていると思っている。今飛騨市では、子供たちが考え判断実行できる生徒の育成づくりということをやっている。吉城高校生と小学生の交流の様子を見て、このことがそこまで浸透してるのだと思ひ感心した。

14番の障害児支援ということだが、不登校に関して大事なものは、学力の保障・居場所の確保・進路の情報提供・社会性の育成が大事だと思っている。従って、グリーンルームを中心に、そういった子供たちも集めながら、体験活動を仕組んだり、そういった発想の転換も大切だと考える。

16番の健康づくりでは子供たちの健康について、自分で考え、判断して実行できるということが大切。食べ物に気をつけようといったことを市役所の方が説明したときは、子供たちも真剣に聞いていた。ぜひ継続していただきたい。

最後に飛騨市学園構想について、地域の方々、プロの方を呼んで、本当にいい事業が展開されていると思う。あとは市民に地域としてどう動いていくか、どのようになっているのかまだ伝わってこないので広報にもっと力入れていただきたい。

【L委員】

堤防沿いや国道沿いに街灯が少なく、真っ暗の道を反射板だけで歩いている方がいたり、実際自分が運転している中で危ない時もあったので街灯を増やしていただきたい。

冬に子供たちが学校へ行く際、雪の中を班長が足ふみをして雪を固めて歩いている。学校へ着くまでにかかなりの時間がかかってしまうため朝の通学路の除雪をやっていただけないか。

飛騨市は「ふらっと」とか「きゃっち」といった取り組みがある。ただ、そういった情報が聞かないと分からなかったり、学校へ相談してようやく知れることが多い。調べれば出てくるのかもしれないが、デジタル化も進んでいるので発信の強化をお願い

したい。

不登校について、岐阜市の方で不登校専門の学校ができているのをテレビで見た。その内容を見ると、どこでも自由に勉強できるといった画期的で衝撃的な内容だった。そういった学校を飛騨の方でも検討していただけたらいろんな面で守れる子供が増えていくのではないか。

デジタル化という事で令和4年度に広報の強化があげられているが、コロナ禍で人数制限がかかり運動会を見ることのできない親や祖父母が出てくる。自分の活躍を見てもらいたいと思っている子供も多い為、運動会の内容をオンライン配信で見れる機会を作ってほしい。

【M委員】

昨年定額給付金等が出た際に、リフォーム補助金を活用された方などもおられるが、まだ眠っている預貯金があると思っている。その中でインターネットバンキングの普及などを進めており、農協では今スマホ教室を各店舗で開催し、年配の方への指導に取り組んでいる。そして住宅ローンやリフォームローンを使っていたり補助金のPRもしながら、お金の流通がスムーズに動くよう頑張っていきたい。

飛騨市ドローンプロジェクトについて、昨今は農業の方でも購入される方がおり、今後の普及に期待を寄せている。仕事などでもドローンを活用することで作業効率を上げることができると思っており、農協としても協力して取り組んでいきたい。

あとハウスの温度管理とかでAI機器を使っている農家も増えている。今後様々な分野でのAIの活用が叫ばれているので、市と一緒に取り組んでいきたい。

【N委員】

飛騨市は関係人口をふやしていこうという中で、SNS等を拝見するとそれぞれに発信を上手にされていると思う。発信をすることで興味を持ち、関わってくる人が増えていくのだと思い、発信の大切さを改めて感じた。

コロナ関係の資料に、この期間の中で正規の職員また非正規の中で解雇はなかったと記載があった。確かに解雇はなかったと把握しているが、非正規の方はコロナ禍の中で契約が切れ、解除するという方がいた。解雇ではないが、そういった実情があったと申し添えをさせていただく。

人材確保の中で地元を対象とした冊子を作っておられたり、企業紹介サイトをリニューアルされたということで、高校生に情報誌を提供しておられる。しかし今は職業、進路を決めていくタイミングが、中学生の頃から方向性を大体決め、高校に入った段階で進路に向かっていくというところがある。進路や方向性を決める時に手に渡る方がいいと思うので、中学生の頃に情報誌を提供できればいいのではないか。

移住について、コロナ禍ということもあり、田舎・地元に戻ろうという方も多くいると思う。ネットで飛騨の事業所が掲載されているが、移住希望者をダイレクトに結びつければ地元に戻ってくる人もいると思うので、就職相談の窓口のようなものがあるといい。

災害について、平日の日中に災害が起こると仕事に行っている人はなかなか帰って来

れない。独居の方は地域でフォローすることを私の地区でもやっているが、本来介助すると町内で決めた人が仕事に行っていない為、結局はその人をフォローできないという問題があり、地域でも話題として挙がっていた。

最後に、担い手がなくなった複数の田んぼを大きな田んぼにまとめて、やっていただけの方にやってもらうという話があった。その中で私共も実際に携わっており、区画を大きくして営農組合がやっていく事になった。ただ、その営農組合自体も高齢化が非常に進んでいる。現段階でそれをやっていけば確かにやりやすいという話になったが、10年後どうなっているかという問題が挙がっている。また、田んぼを大きくしたことで、機械が今までの個人で持っていた機械ではなく大きい機械でなければ間に合わない。しかしその機械をどうやって買うのかという話もある。やりやすくなっただが、継続してやっていく上で課題があると感じている。

【会長】 市長からご意見を伺う。

【都竹市長】 A委員のお話で、空き家を直す時に近隣に説明するところを市で義務づけるのは難しい。そしてリフォーム等は許可があるものでもないため、情報も市ではほぼ分からない。区が代わって説明することもおかしいので、本人にしっかり周囲に説明していただく旨を伝えるしかないかと思う。

飼い猫の多頭飼いのお話について、現在市のソーシャルビジネス支援事業として保護猫活動をやりたい方が手を挙げている。そうしたサービスが市内で生まれてくると、そこへのサポートで猫の保護ができるようになってくると思うので、そうした動きの中で対応ができるといいと思っている。

B委員の大谷地区の雪崩の話だが、事前に危険回避のためにある程度早いタイミングで通行止めにするという説明が市と地区にあった。危険回避の為の通行止めなので、やめてくださいと言うと雪崩になってもかまわないということになってしまうので難しい。根本的には山の方を対策しないといけないということにもなるのでその辺りを含め古川土木と協議をしていく必要があり、単に閉鎖を解くお願いをするのではなく、安全性を確保しながらの通行、あるいは迂回路の確保、山の対策も含め古川土木と話をしたい。

C委員の個人の除雪機の補助については検討したいと思うが、やるとしても条件や趣旨を検討する必要があるため、またよく考えさせていただきたい。

D委員のお話で、役所に言うまでもない話が区長に行くという話があるのも事実だと思う。ただ幅広く共通して起こることは、市としての対策を考える必要性がでてくることから、区長としての困りごとや、対処に苦慮する出来事を吸い上げるようなことを考えていきたい。

E議員のお話で、神岡がアパート不足という状況は承知している。市営住宅を建てるのではなく、業者にアパートを建ててもらえるような支援策を考えていきたい。市として空き家を賃貸に出すときの改修補助制度を作っており、そうした空き家を空き家バンクとして提供している。もっと上手に提供できるようにしていきたい。

市のホームページについて、探しているページに行き着きにくいということは承知している。市民の方々からホームページに関する意見をいただくモニター制度を作ったが、あまり機能していないのもう一段しっかりやりたい。担当者に使い倒すということをよくお願いしたいと思っている。職員にも、自分のホームページを使い倒して、行き着けるかどうかやってもらうことを徹底しないといけない。

それから災害時の避難の話だが、今、水平避難だけではなく、垂直避難をするというのは大きなテーマ。各地区の中でもハザードマップを見ながら、一度各家単位で危険な箇所を認識してもらえるような活動をやっていきたい。

SDGsのアイコンを主要施策の資料に掲載するというのは早速考えさせていただく。

F委員の話で、コロナウイルスに関する誹謗中傷で辛い思いをされた方がいるのは承知しており、実際に話している。引き続きやさしいまちづくりということを繰り返しやっていく。

それから病児保育の使い方については一度改めて利用者の声を聞かせていただいて、どのように改善していくのがいいか早速調べていきたい。通学路の除雪問題はなかなか手が回らない日もあり、優先で除雪するのは難しいところもあるが、できるだけ危険のないように改めて調査をしたい。

市民病院の診療科について、病院経営上も診療科を増やすことは大変。また富山大学からの医師の派遣の問題もあるので、ニーズ等をよく調べていきたい。

G委員のお話で、子供たちから直接市長に、意見が届くというのは早速考えたい。nodeの利用が増えてきたのは大変ありがたい。より充実した形になるように、時間の延長も含めてまた相談させていただき検討したい。

H委員のお話で、プレミアム商品券については驚くべき売れ行きだった。今後はプレミアム商品券ではなく、商売をされてみえる方が自分で動いて物が売れるという仕組みをコロナが終息に入っていく状況をみながら考えたい。

ただ、まるごと大売り出しみたいな新しいやり方のトライアルをやることで、さるばるユーザーの増加など今後のベースを作れる取り組みがあるので、バランス見ながらやっていきたい。

マイナンバーの普及について、もう少し役に立つようにならないとなかなか普及はしないと思っているが、ベースを作っておけばすぐに乗れることもあるので地道にやっていきたい。

レールマウンテンバイクの売上がかなり落ちているということで、昨年並みぐらいに

着地してくれればいいが、またよく NPO へ状況を聞きたいと思っている。
ラッピングトラックのパンフレット配布は非常にありがたいことなので、またわかりやすいパンフレットを準備したい。
釜崎朝浦線の 41 号線接続はなかなか市道単独では難しい。しばらくはないかもしれない。また別の観点で利便性が高まるようにしたい。

I 委員のお話で、情報弱者については大きな変化が起こった時、例えばガラケーからスマホに変わった時や、電子マネーが普及した今などがポイントだと思うので、そういった講座を情報弱者対策として考えたい。

オンラインで別の地域の子供同士が交流するのは非常に面白いお話だと思う。今、有志の首長の会で給食応援村という他地域の子供たちが録音した放送を、給食を食べながら聞き、交換する取り組みがあり、それをやりたいという話をしている。その延長線上でオンライン交流ができると思うので、また学校と相談しながら考えたい。
在住外国人・外国籍市民への支援について、働き手の確保だけではなく、生活支援も含めて今取り組みをやっているが、さらに充実させていきたい。

J 委員の重要土地利用規制の法律の話だが、あまり勉強していない部分で大変貴重なご指摘をいただいたと思っている。

この辺りは規制や仕組みなど市長会に問題提起することも含めてよく勉強したいと思っている。

K 委員のご指摘について、後程教育長からお答えいただきたいと思うが、この中で吉城高校生の小学生に向けた授業の事例は、飛騨市学園構想の一つの描いていた姿であり、さらに追求していきたい。

英語の専門の先生の配置の話は、お金や仕組みの問題、制度の問題等があり、よく考えていきたい。

減塩の話だが、3 歳児から尿中塩分が多い。世代全部通してやっていかないといけないので、今調べてやっていることをさらに継続していきたい。

L 委員のお話で、街灯の相談は様々な所でいただいている。街灯は市で設けるものばかりではなく、国や県、各地区で設けているものもあり、「ここに付けます」と一概に言いにくい。特に危ない場所、怖い場所を抽出し、優先順位をつけ、できるかどうかを検討していく。

「ふらっと」や「きゃっち」のお話で、困った時にすぐそういった施設があると市民の方が分かっていないのは、市の広報の弱さ。できるだけネット上ですぐに情報を入手できるようなことを考えていきたい。

運動会を直接見れない人のために映像で見てもらえる仕組みについて、YouTube での配信等があると思うのでまた各現場のほうで考えてもらいたいと思っている。

M委員のお話で、去年の特別定額給付金について、リフォーム補助のような形で使ってもらおうというのがあるが、非常に財政負担も大きく誘導策としてはかなり苦労する。融資との連動はまだ深堀できているのでよく検討したい。

ドローンの話で、地域おこし協力隊の若者が来て飛騨市のドローン事業をいろいろやってくれているが、これをビジネスのサービスとして提供するところまで持っていきたいと思っている。今後の市民向けのサービス展開なども含め、また話を聞きながら進めていく。

あとスマート農業の話で、飛騨市はKDDIと一緒に色々取り組みをやっており、成果もでてきているので、さらに深堀していきたい。

N委員のお話で、確かに非正規の雇い止めがあったことは聞いている。ただ一方で求人、人手不足に悩んでるところはかなりある。仕事はあるが自分のやりたい仕事でなければ生活が苦しくても就業しないという人は多く、職業のミスマッチの問題は難しい。人手不足の事業所へマッチングできる、あるいは、マッチングするための職員能力の開発サイドのサポートに取り組んでいきたい。

地元高校生向けの就職情報誌については、現在高校3年生と大学生にお配りをさせていただいているが、タイミングをどうするのか高校生に現場の声を聞いてみたいと思う。

移住される方の就職のマッチングについては、コンシェルジュの方でもサポートするが、ハローワークで相談される方が非常に多い。数ある中から自分で探して見るというのがいいと理解している

日中の災害については、援護する人がいないという状況が確かにあるので、いろんなパターンで要援護者を考えておかないといけないと思っている。

田んぼの土地改良について、担い手農家にお任せをするということを前提にしており、任せるときに効率がいいように区画整理をするという考え方。今後は専門の農家の方が非常に広い農地を管理していくという形になっていかなるをえないため、その時に飛騨市内の中で残さないといけない土地、地域を今順番に土地改良をやっていく。もちろんご自身で農業をやりたいというところことも当然あると思う。

N委員 私のお伝え方が悪かったかもしれないが、私自身が営農組合側で、請け負う側が高齢化で10年後大変だという話だった。

都竹市長 そのあたりは担い手に対する支援ということで、また話を聞きながら支援策を考えていきたい。

沖畑教育長 F委員やL委員の通学路の除雪について、一気に雪が降ると大混乱を起こすという神岡の事情は承知しており、交通整備をしたりということもあった。また、そういった時はぜひ学校に声を届けていただきたい。除雪業者と学校が密接に連絡を取りながらやっているが、朝は手が回らないこともありご了承いただきたいという話も聞く。時間を

増やすこともできるので、またご要望があれば学校と密接に連絡をとっていただきたい。校長にも伝えておく。

K委員の4月の始業式について、校長会ともよく相談をしたい。必要によって管理規則の変更も今後考えていこうと思うが、また検討させていただく。

豊かな心を大切にバランスよくということについて、今は考え方として、関係を築いたり、好奇心を育てたり、といったことも学力とされているので、全体をバランスよくやりたいと思っている。

英語教育だが、ご存知のように国も小学校の高学年においては教科専門制を打ち出している。順次少しずつだが、加配がついている。今後増えることを期待しており要望もしていくが、定数があるのでなかなか思うようにいかない。そこを補うという意味で、市の方も今2人の英語指導員に指導する専門性を持った人をつけているので、なんとかカバーしていきたいと思っている。

小学校の体験活動も含め社会性の育成について、今グリーンルームを中心にしているんな繋がり作りや勉強、サポートをやっている。

夏休みとかに集団体験するようなことをこれから仕組んでいけると、話を聞かせていただいて感じたのでまた検討させていただく。

同じく不登校のことでL委員から岐阜の中学校の話がでたが、多分どこの市でもできることなら作りたいという思いはある。しかし学校を作るということは大変なことで、飛騨市のような小さなところでは進められない。スタディサポーターといった、家に勉強を教えに行く教員をつけたりしながら、全く離れてしまわないよう、将来動き出そうとした時に、できるだけ不安を取り除けるような方法を考えていく。そのほかにも様々なことを固く考えず、頭を柔らかくして考えていきたいと思っているので、またご意見があればお届けいただきたい。

運動会について、人数の多い学校においては制限することもやむを得ないと思っている。それぞれの学校でどれぐらいのキャパがあって、どういう動線を作れるかということも含めて、学校で考えて進めている。動画も撮っており、これまでやったことを見ていただける方法を考えているので、YouTubeの配信ができるかは、また話し合いながらいい方法を考えていく。

【会長】

私からは2点ほど補足させていただく。

避難の話は、今、岐阜県では災害避難カードの作成を進めており、一世帯ごとに、避難の流れを昼と夜の場合で2パターン考えるというもの。ぜひご利用いただきたいと思っている。

水源地は補助制度があり、実際に水源地用として市が買ってしまおうという形の助成制度があるので、ご利用いただければと思う。

いずれにしても、貴重なご意見いただき、来年度に向けて施策を考える上での課題な

どが見つかったと思う。

それでは、協議事項は以上となる。

D委員 先ほど高木会長が仰ったことで、市が山林を買うことはできるが、強制的に買うことはできない。県の条例では強制力がないので、やはりどうしても今できた法律を山林まで範囲を広げていくしかないと思っている。

6. その他

今後のスケジュールについて説明。（資料⑥）

7. 閉会【湯之下副市長】

委員の皆様には本日も長時間にわたり貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。

今年3月で多数の管理職が退職され、5名ほど新しいメンバーとなっている。今から秋にかけて、それぞれ部長を中心に来年の政策を固めていく。新しいメンバーということで期待をしているところであり、委員の皆様には今後ともご協力やご意見を頂戴したい。それでは本日の会議を閉会する。